

2月1日創刊のモデル新聞



平成31年2月1日創刊
〒722-0035
尾道市土堂二丁目10番3号
尾道商工会議所3階9号
株式会社 尾道新聞社
発行人 福井弘
TEL(0848)23-2288 FAX(0848)23-2289
news@omnp.jp

12日のこよみ		
赤口		
満潮	1:53	280
	14:39	315
干潮	8:02	47
	20:51	96
平成20年この日 向島町商工会が最後の 新年互礼会を開催		



主人公は誰か！ 今年秋頃、完成予定の新庁舎

市長選

4年に一度の統一地方選挙が4月に実施される。前半が県議選で後半が市長・市議選で正月をはさみ、それぞれ立候補者は臨戦体制を築きつつある。市長選は平谷市長が出馬の意向を固めたほか現職市議に、前回出馬した元県部長も意欲を示し、混戦模様を呈している。県議選は吉井元県議長が再挑戦、前回の無投票から一転し投票となる。市議選は流動的でこれからだと言え。少し早いかも知れませんが、統一地方選挙の現状を追ってみた。

(平田元成)

4年に一度の統一地方選挙

平谷市長、4選出馬か

市議や元県部長ら、混戦模様

市長選は年明けから「昨年7月の集中豪雨で、慌ただしくなってきた。年末の12月議会で4選出馬するか、どうか注目されている現職の平谷祐宏市長(65)は

「昨年7月の集中豪雨で、慌ただしくなってきた。年末の12月議会で4選出馬するか、どうか注目されている現職の平谷祐宏市長(65)は

市長・市議選は4月21日

季(とき)の花 「キチジョウソウ」

緑花文化士 横山直江



ユリ科キチジョウソウ属の常緑多年草で「吉祥草」と書きます。山地のやや湿った陰地を好み、実

色は、家中に慶事の兆し(吉兆)があるキチジョウソウを嫁家の庭に植えて大切にしたい。この統一地方選挙は天皇退位などで1週間程、前倒しになった。

敷内に植栽されていた。そんな縁起の良い植物なら、わたしも実家の山に自生しているキチジョウソウを嫁家の庭に植えて大切にしたい。この統一地方選挙は天皇退位などで1週間程、前倒しになった。

※12月26日と1月4日の『創刊のお知らせ』の中で告知しました新聞のサイズ「A4判8ページ」とあるのは、「タブロイド判4ページ」(一部カラー刷り)に変更となりました。

購読の申込方法

現在お読みの朝刊(中国新聞・朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・産経新聞・日本経済新聞・山陽新聞など)の販売店に、直接お申し込みください。
尾道新聞にご連絡いただく場合は、FAX・電話・メールにてお申し込み下さい。
※因島・生口島方面の方は、最寄りの中国新聞の販売店にお申し込みください。

株式会社 尾道新聞社

代表取締役 福井 弘

☎722-0035

尾道市土堂2丁目10-3

尾道商工会議所ビル3階9号

TEL(0848)23-2288

FAX(0848)23-2289

mail:news@omnp.jp

吉井氏、再びチャレンジ

前回の無投票から一転、投票に

県議選

県議選尾道選挙区は4年前の前回、初めて無投票になった。定員が1人減り3人に対して8期、自民党、松浦幸男氏(76)▽5期、自民党、高山博州氏(65)▽3期、無所属で国民民主党推薦、金口巖氏(64)が立候補し初日、1日限りの選挙で当選が決まった。

「市では出来ない広域行政の立場から、国とパイプを強め、災害復旧、復興に全力を尽くしていきたい。市民病院をはじめ公立病院の医師不足の解消、少子高齢化の人口減少

新人が名乗り、紅一点も

議員定数、なし崩しで現状維持

市議選

市議選は定数29人から1人削減、共産党・寺本真一議員が今期、逝去したの現状維持で選挙に臨む。市民からはブーイングが浴びせられたが、昨年の12月議会で、創生会・平成会・新和会・誠友会・市民連合・公明党の保守、中道革新の6会派の多数で可決した。

保守系会派から異論、反論が相次ぎ、その声に押され、実質、現状維持の28人にとどまった。

このたびの議員定数に関し、論議したのは密室とも言える各派代表者会議がほとんどで、これまでのように議員定数の特別委員会を設け審議してきた、市民に開かれた議会とは、ほど遠かった。

現状維持の28人になった原因の一つに、万機公論に決すべしという姿勢が議会になかったということが大きかった。

さらに言えば、会派内で下位当選者をおもい、定数削減に消極的になっていったことも事実であった。

議員定数削減と議員の処遇改善の要望書を提出した尾道商工会議所の福井弘会頭は「実質的には現状の定数と変わらず、失望しています。何故、そうなったのか、その根拠や説明もありません。市議会の常識、見識が問われている」と手厳しい。

4月の市議選は公明

前回の県議選は尾道選挙区だけでなく、県内23選挙区のうち半分以上にあたる12選挙区で無投票となり、県政と住民との架け橋になる県議の存在が改めて問われた選挙だった。

このたびの県議選は、4年前の市長選に出馬し、惜敗した吉井清介氏(60)「写真」が再び、県議に挑戦し、話題を呼んでいる。『新たな決意で、郷土

で地域コミュニティが疲弊してきており、地域自治の立て直しをはかっていきたい」と立候補にあたり抱負を述べていた。

吉井氏は尾道市議から平成15年、県議選に鞍替えし、初当選。3期中で県議を辞職し、平成27年の三つ巴となった市長選に出馬し、平谷候補に1850票の僅差で敗れた。

選挙後の同年7月、公職選挙法違反の寄付行為の罪で公民権停止3年と罰金の略式命令がくだされた。

吉井氏の県議選参入で尾道選挙区(定員3人)は前回、無投票に終わった松浦氏、高山氏、金口氏の3人も立候補の決意をかためており、選挙になる見通しとなった。

選挙後の同年7月、公職選挙法違反の寄付行為の罪で公民権停止3年と罰金の略式命令がくだされた。

吉井氏の県議選参入で尾道選挙区(定員3人)は前回、無投票に終わった松浦氏、高山氏、金口氏の3人も立候補の決意をかためており、選挙になる見通しとなった。



尾道商工会議所など市内の主要経済4団体が昨年2月、尾道の類似都市並みに定数を3人減らし、その一方で議員報酬を引き上げ待遇を改善すること、時代にマッチした議員を輩出し、魅力のある議会にして欲しいとの願いを込めた要望書を吉田尚徳議長に提出していた。

吉田議長も経済界の要望に添い、議員定数3人減で営みを続けてきたが、土壇場になり、

選挙後の同年7月、公職選挙法違反の寄付行為の罪で公民権停止3年と罰金の略式命令がくだされた。

吉井氏の県議選参入で尾道選挙区(定員3人)は前回、無投票に終わった松浦氏、高山氏、金口氏の3人も立候補の決意をかためており、選挙になる見通しとなった。

選挙後の同年7月、公職選挙法違反の寄付行為の罪で公民権停止3年と罰金の略式命令がくだされた。

吉井氏の県議選参入で尾道選挙区(定員3人)は前回、無投票に終わった松浦氏、高山氏、金口氏の3人も立候補の決意をかためており、選挙になる見通しとなった。

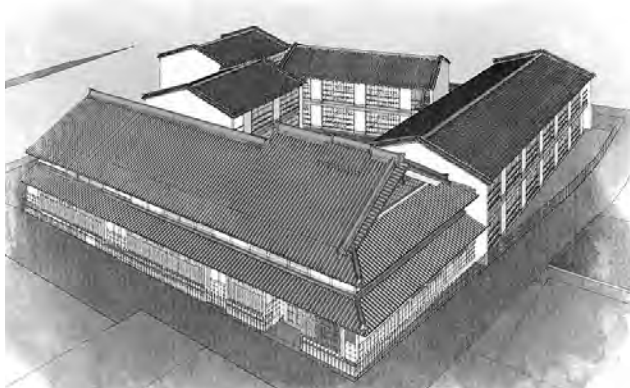
吉井氏の県議選参入で尾道選挙区(定員3人)は前回、無投票に終わった松浦氏、高山氏、金口氏の3人も立候補の決意をかためており、選挙になる見通しとなった。

堀内邸を高級宿泊施設に

賑わいの拠点、2年後に開業

製塩業

や海運業を営んでいた瀬戸田町の豪商・堀内家が明治初期に建てた邸宅を活用した、高級宿泊施設が2年後にオープンする運びとなった。



「堀内邸」の寄贈を受けた市が瀬戸田地域の賑わいの創出の拠点施設として古民家活用事業の公募をおこない、ホテルの経営、コンサルティングをしている京都市中京区、(株)ナル・デベロップメントと土地と建物の売買契約を結び、2630万円で売却した。

敷地面積が2287㎡、建物は母屋のほか11棟あり建築面積は1123㎡。昨年11月、堀内家から市に譲渡された。

古民家活用事業として高級宿泊施設や地域の人たちも利用できる入浴施設、地域の食料を活かしたレストランなど検討している。

瀬戸内7県の地銀などで組織する瀬戸内ブランドコーポレーションが共同提案者として企画、情報発信などの役割を担う。国際観光都市に飛躍する事業の一つで注目されている。【半田元成】

3月10日新駅舎開業

尾道駅「新たな旅の玄関口」に

JR西日本が総事業費17億円を全額自己負担し、建て替え工事を進めている山陽線の尾道駅新駅舎が3月10日(日)に開業する。「地域の観光拠点、新しい旅の玄関口にしたい」(片岡茂樹駅長)と話している。

「幾野伝」

老朽化による駅舎の建て替えは一昨年5月から行なわれていて、外観工事が終わって現在には内装工事が進められている。

新駅舎は明治24年当時の初代駅舎の趣きを踏襲したデザインで、瓦葺き風の鉄骨造り2階建て。尾道水道を一望出来る眺望デッキがあり、市民も観光客も利用出来る7店舗(別表)が入る。

エレベーターや多機能トイレでバリアフリー化をはかり、駅事務室内には授乳用などの個室型の多目的ルームも設けられる。

「春の行楽シーズンに間に合いました」と話す片岡駅長は「町の

1階	セブン-イレブン ハート・イン(コンビニ&お土産) BETTER BICYCLES CAFE(レンタサイクル&カフェ) ONOMICHI STAND(お土産) 食堂ミチ(食堂) 観光案内所
2階	m HOSTEL(ホステル) サワーバー(バー) ONOMICHI STAND(お土産) 喫茶レストランNEO(喫茶レストラン)



町を守り・支えた尾道商人

開港850年を迎える尾道に、新たな地域紙が産声を上げた。昨秋に市制施行以来の歴史を刻み、唯一の生き残りとして地域紙の灯を繋いだ「山陽日日新聞」が廃刊し、地域紙の歴史はここに絶えることになった。

それから時を置かずして、地域紙復活への狼煙は上り、「尾道新聞」創刊へと瞬く間の結実を見る。地域紙の消失は、地域コミュニティの消失にも繋がりがねないといふ危惧した経済界が、何とかせねばと立ち上がった賜物であるが、長い尾道の歴史の中で、尾道商人がここぞとばかりに立ち上がる今回のような例

は、これまでも幾度となくあった。国宝の寺・浄土寺が悉く焼け落ちた時（正中2年・1325）、再建に着手したのは道蓮（どうれん）・道性（どうしやう）なる法名を持つ夫妻であった（2年後の嘉暦2・1332年）の再建で今に遺る建物）。二人の詳しい素性は分かっていないが、郷土史大家の故・財間八郎先生は、海運業で財を成した豪商であったろうと推察されている。

江戸時代の天保の大飢饉に際して多くの失業者が発生した尾道にあって、町年寄として町政にも参画した橋本吉兵衛こと橋本竹下（ちつか）が、自身の檀那寺である慈観寺本堂の再建に着手（天保5・1834年起工、同8・1837年完成）。その工事で多くの人を雇用する事によって、町内からは一人の餓死者も出さなかったという。

近代明治の世では、現在の山陽本線である山陽鉄道敷設を受けて、賛成・反対両派の対立が激化した折りも、西国寺住職と共に有力者であった豪商東屋・天野嘉四郎（尾道商業会議所の設立発起人）が調停に奔走し、事態を取束させた。大正末の上水道敷設では、総事業費の4分

3に相当する巨額（現在の貨幣価値で数百億規模）が、尾道生まれ、大阪で商人として大成した山口玄洞翁（尾道市名誉市民）一個人から投じられた。玄洞翁に関しては尾道商人ではないが、尾道マインドを秘めた商人として、ここに並ぶだけの存在であり、また逸話である。

住吉花火の維持も然り。全国各地で負担が大きい花火大会が縮小されている中、尾道にあつては元気に打ち上げられ続けている。これなども地元企業団体の心意気の賜物に他ならない。祭りの維持については、尾道は「寄付文化」が生き続けている町であると言われている。

「尾道新聞」の題字背景説明
：手前下部の傘状のものは新尾道大橋の斜張ケーブルで、大橋越しに尾道水道を東から西へ向けて眺望する風景。上部左右に覗く草花は、向かって右手が尾道の市花に選定され

る桜、左手が島に実る柑橘を配するデザインになっている。背景の作画・デザインを手掛けたのは水谷綾子さん。サンニチ初の女性記者として活躍し、地域活動にもバイタリティ溢れる彼女が、新たに生まれる地域紙で再登場となりました。

連載予告
「山陽日日新聞」紙上で連載され、同紙廃刊に伴い10月28日付の第12回で切れることになった「尾道町をゆく」（林良司筆）を、「尾道新聞」紙上で引き継ぎ、連載を再開します。

を、歴史的・文化的視点で、探訪・探究する読み切りです。全50回のプログラムで、最終的には一冊の本にまとめることを想定して書き進められています。再スタートとなる第13回は、千光寺の玉の岩を訪ねての「烏帽子岩、或は宝珠岩、或は玉の岩」からです。

生き続ける寄付文化

文化の面でも尾道商サロンの中にも当時の人は、物心両面でこれ尾道商人がどつしりと構えていた。祭礼文化では、祇園前述の橋本竹下の時代に見られた文人墨客と花開かせた文化繚乱に始まり、小林和作を軸に描き出された文化

旧の尾道町内（旧市街）に大小これだけ多くの祭りが溢れ返っているにも関わらず、何れも廃れることなく、それぞれ祭りの通じて町に活気と元気を与え続けている。夏祭りなどは毎週のように続く訳だが、その都度に浄財は寄せら

れ、一つの風物詩のようになっていく。とにかく年中寄付が続くと言っても過言ではない。言っても過言ではないくらいで、他所の町から見ると、その辺りがマネできないように映るのかもしれないが、この寄付文化というキーワードも、尾道が誇るべき歴史と伝統と思いたい。

これから始まる「尾道新聞」の歴史は、地域紙の歴史で語られると同時に、以上の経過の中にも語り継がれることになるだろう。

追記：平成以降では浄土寺下の高層マンション建設計画に対し、歴史的景観を台無しにする、丸善製薬会長の（吉和宏会長）の主催で開かれる。例年60チーム前後が出場し、町内の小・中・高校生と地域・職域からなる一般の部、遠方

からの出場もある。昨年の優勝は一般の部が地元の河内体育協会Aチーム。午前10時に御調高校をスタートし、6区間で競われる。当日は道の駅で市職員によるぜんざいも振る舞われる。



浄土寺本堂（手前・国宝）、阿弥陀堂（中・重文）、多宝塔（奥・国宝）…奈良西大寺の定証上人が里人の懇請を受けて嘉元4年（1306）に堂塔を再興。道蓮・道性の再建はそれに続く歴史の大きな一頁となった。
写真提供：尾道観光協会（無料写真素材「おのみちや」）



慈観寺本堂…再建された本堂内陣の襖絵には尾道生まれの閨秀画家・平田玉蘊女史が「桐鳳凰図」を優美に描き出している。アーティスト・クリエイターへの支援も尾道商人の心意気や文化度の高さを窺わせる。
写真提供：尾道観光協会（無料写真素材「おのみちや」）



復活した三休神輿の勇姿…昭和53年・尾道青年会議所蔵

セピアイロの尾道写真館



向島兼吉のとんど行列 昭和30年（1955）2月6日・土本壽美撮影（故人）
現在でも伝統行事として行われている兼吉のとんど（神明祭）。昭和30年代初頭までは兼吉・富浜・川尻など8基が繰り出していた。神輿のように町内を巡行するのが珍しい。

第44回みつぎ駅伝大会
御調町の冬の一大イベント「第44回みつぎ駅伝大会」が2月10日（日）、御調町体育協会（吉和宏会長）の主催で開催される。例年60チーム前後が出場し、町内の小・中・高校生と地域・職域からなる一般の部、遠方

来月23日から展覧会

市内から神原さん奨励賞を ただ一人 絵のまち四季展の入賞者

「絵のまち四季展」の入賞者

ビエンナーレ形式で隔年開催の全国公募展、第18回「絵のまち尾道四季展」の審査結果が発表された。地元からは浦崎町、県立神辺高校美術教諭の神原菜穂子さん(38)の日本画「茜」が上位の企業奨励賞(尾道美術協会賞)に入った。

「幾野伝」

尾道の風景、風俗、祭り、行事などで特徴を取り入れたものをテーマに、未発表の平面絵画を高校生をのぞく18歳以上を対象に11月に公募。県内の203人(うち尾道市内48人)をはじめ、427人から合計58点、日本画47点、水彩画75点、混合技法29点、その他27点)が寄せられた。前回と比べてエントリーが93人減り、応募点数も113点少なかった。千光寺公園かおり館



で美術評論家の石川健次・東京工芸大学教授▽奥山民枝・尾道大学芸術文化学部名誉教授▽美術評論家の島田康寛さん▽平松礼二・順天堂大学客員教授▽日本芸術院会員の藤森兼明さんが審査した。尾道賞「グランプリ」(賞金200万円)は静岡県浜松市、田畑武雄さん(69)の油彩「太公望」、つづく小林和作奨励賞(30万円)は三次市布野町、福井誠さん(65)の油彩「尾道の画家」が受賞した。以下の優秀賞(10万円)5点と奨励賞(5万円)10点、企業奨励賞(5万円)6点、秀作賞4点、入選189点を決めた。

展覧会は2月23日から3月10日まで、入賞・秀作作品が市立美術館、入選は本通り商店街で開かれる。表彰式は初日午前10時から会場の市立美術館である。

◆優秀賞(10万円)

尾道美術協会(佐藤圭史会長)が「2019年新春洋画展」を3会場に分けて開いている。

尾道美術協会(佐藤圭史会長)が「2019年新春洋画展」を3会場に分けて開いている。

尾道美術協会(佐藤圭史会長)が「2019年新春洋画展」を3会場に分けて開いている。

尾道美術協会(佐藤圭史会長)が「2019年新春洋画展」を3会場に分けて開いている。

災害義援金93万円贈る

尾道青年会議所が市社協に

尾道青年会議所が尾道市社会福祉協議会に災害義援金92万円8000円余りを贈った。



尾道青年会議所が尾道市社会福祉協議会に災害義援金92万円8000円余りを贈った。

尾道青年会議所が尾道市社会福祉協議会に災害義援金92万円8000円余りを贈った。

中庄体育会主催し14年目

因島・瀬戸田の小・中学生

第2回「因島・瀬戸田地区小・中学生マラソン大会」が来月3日(雨天時は10日)、因島・瀬戸田地区の公園一帯で開催される。

中庄体育会が主催、因島・瀬戸田地区防犯連合会が後援し、12年間開催してきたが、昨年から因島全体と瀬戸田

銀座T A Uで因島物産展

因島観光協会は2月

23日と24日、広島ブランドショップT A U(東京都中央区銀座1丁目)で因島観光物産展が開く。

村上海賊の集い、因島へ集合の思いを込めて今年のコンセプトは「集(つどい)」。

「新春洋画展」3会場で 尾道美術協会員38人出品を

尾道美術協会(佐藤圭史会長)が「2019年新春洋画展」を3会場に分けて開いている。

尾道美術協会(佐藤圭史会長)が「2019年新春洋画展」を3会場に分けて開いている。

尾道美術協会(佐藤圭史会長)が「2019年新春洋画展」を3会場に分けて開いている。

ちゅピCOMおのみち 平成31年1月12日(土)		
6	00 天気・道路交通情報 30 尾道ニュース 再 50 市広報	
7	00 天気・道路交通情報	
8	00 日本遺産北前船 15 ぐる中 30 尾道ニュース 再 50 市広報	
9	00 ショッピング QVC	
10	00 川島宏治のプラス1 30 尾道ニュース 再 50 中国N	
11	00 ショッピング QVC	
12	00 ひろしまぶちうま 30 尾道ニュース 再 50 市広報	
13	00 ちゅピCOMスペシャル	
14	55 中国新聞ニュース	
15	00 CARPなんでも調査隊 30 ひろしまぶちうま	
16	00 川島宏治のプラス1 30 日本遺産北前船 45 中国N	
17	00 週間ちゅピCOM11ch おのみちニュース	
18	35 ぐるぐる中四国 50 市広報	
19	00 ちゅピCOMスペシャル	
20		
21	00 CARPなんでも調査隊 00 週間ちゅピCOM11ch	
22	おのみちニュース	
23	05 日本遺産北前船 20 市広報 30 川島宏治のプラス1	

FMおのみち FM79.4MHz		
6	デリシャスタイム 小川もこ	
7	おはようサタデー ひのきしんじ 本間千代子	
9	湘南ベース 岩沢二男 9:50 尾道市	
10	プランニューサタデー かとうみちこ 高橋あさみ	
12	ミュージックランチ ミュア	
13	あの頃青春グラフィティ FM世田谷 岡野美和子	
15	懐かしいあの日の頃を振り返る青春音楽番組	
16	サタデースーパーレジェンド	
17	ガレッジパラー ガレッジセール	
18	ブートラジオ 河川恭吾 FMニライ	
19	あつかんべー アッカ 19:00 尾道市	
20	サウンドマリナー 牧山純子	
21	サウンドオブアアシス カノン	
22	ラブエモーション TABARU	
23	レディオボヘミア FMおだわら	

◆画廊喫茶のこ(市 民会館裏側)31日まで		
堂岡悟、濱本和信、平田		
忍、宮谷順子、村上選		
村圭示、山口信哉、山		
根悦、横田招、和田園		

14日の当番医		
内科	藤田 内科 医院 長江一丁目 Tel20-7133	
小児科	向島小児科外科クリニック(小・外) 向島町 Tel44-7881	
外科	上野 整形外科 高須町 Tel46-0080	
歯科	桑原 歯科 医院 向島町 Tel44-2220	

13日の当番医		
内科	丸谷循環器科内科医院 高須町 Tel46-7755	
小児科	宮地クリニック(小・内) 栗原町 Tel22-8855	
外科	三宅 医 院 向島町 Tel44-1048	
歯科	中尾 歯科 医院 十四元町 Tel37-2067	

因島図書館		
市立因島図書館は23		